

配筋間隔が粗く、底盤が不定形

年度	1994年完成(2009年調査)
場所	東京都葛飾区
構造	木造在来軸組工法
階数	2階
延べ面積	146 m ²
用途	一戸建ての住宅

瑕疵の特徴

1. 確認申請図書には基礎立上りの縦筋間隔が300mmと記載されていたが、「RCレーダ」で測定したところ500~550mmと申請図書より大きい間隔であった。
2. 基礎底盤の不成形及び厚さの寸法不足。

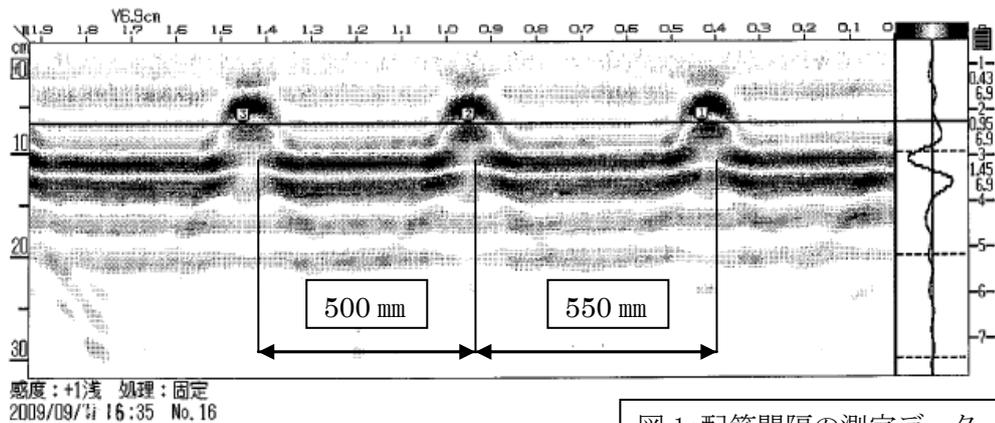


図1: 配筋間隔の測定データ



写真1: 基礎底盤

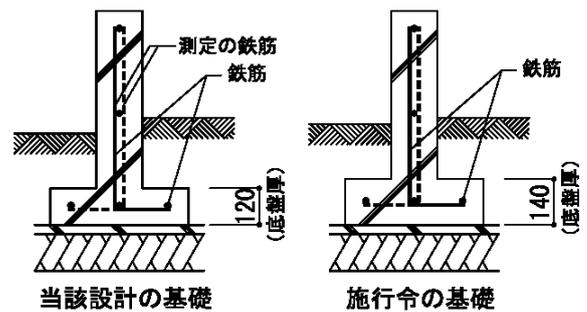


図2: 基礎の断面

解説

電磁波によりコンクリート内部の鉄筋の位置を測定することのできる「RCレーダ」により、基礎内部の縦筋を測定したところ、設計図(確認申請書)に記載されていた縦筋間隔より、実際は2倍近い長い間隔で施工されていたことが判明した(図1)。また、基礎底盤も不成形で、厚さは概ね100~120mmを計測したが(写真1)、底盤の厚さは設計では120mm、施行令第79条が定めるかぶり厚からすると140mmが必要とされ(図2)、寸法確保にも欠陥があった。